

学会参加記

第 14 回 国際歯科麻酔学会議 2015 に参加して International Dental Congress on Anesthesia, Sedation and Pain Control 2015

高 橋 奈々恵

Nanae TAKAHASHI

東京医科大学八王子医療センター麻酔科

第 14 回国際歯科麻酔学会議 2015 でポスター発表の機会を頂きましたので、ご報告させていただきます。

本学会は 3 年に一度開催される歯科麻酔関連の学会で、安全で快適な歯科麻酔を患者さんのために提供することを目的としています。これまでの開催場所は、オーストラリアのゴールドコースト、ハワイなど世界各地で行われており、2015 年の今回はドイツ・ベルリンにて 10 月 8 日から 10 日の 3 日間行われました。東京の 10 月初旬はまだ夏の余韻がのこる残暑でしたが、テゲル空港に降りた瞬間のベルリンの空気には、秋深まりゆく気配を感じました。

市内には、レンタル自転車が数多く置いてあり、これに乗って簡単に市内を巡ることができます。ドイツ統一の象徴ともなっているブルンデンブルグ門を境として、街の雰囲気が異なっていました。旧東側には、地上に出た水道管システムや美術館島、教会など昔ながらの建造物が多々残って

おり、旧西側は、広い道路が整備され、新しいビル街の中に緑が多い公園が点在している雰囲気でした。

学会会場で提供されるランチは、ベルリン名物のカレー粉たっぷりのソーセージ・カレーヴルストと、ヨーロッパ風のカレーでした。午前中のセッションが終わると、会場の外に設けられたブースにて皆で立食形式の昼食パーティーが繰り広げられます。温かい食事と共にざっくばらんに情報交換できる場が設けられていました。ポスター会場では、審査される先生方が回ってはディスカッションが始まり、学会賞などが決まっています。

歯科麻酔では、局所麻酔が浸透しづらい骨組織や炎症組織に局所麻酔を浸潤させなくてはいけない場合が多く、それに適した局所麻酔薬のアーティカインを用いた発表が印象に残りました。歯科用アドレナリン添加アーティカインカートリッジは、欧米ではすでに広く一般的に使用されています。炎症性組織への浸潤性の良さや作用時間の長さという点で、現在日本で頻用されているアドレナリン添加のリドカインカートリッジより、低いアドレナリン濃度で優れた効能を発揮します。より安全で快適な歯科麻酔のために日本でも一刻も早い使用認可が待ち遠しいと感じました。

私のポスター発表題目は、「Dexmedetomidine-based intravenous sedation of a Glucose-6-phosphate dehydrogenase deficiency (G6PD) pediatric patient : A case report」でした。G6PD 欠損症小児の周術期管



理で大事なことは、抗酸化作用のある薬物を選択し、炎症やストレスを避けることに気を付け、急性溶血性貧血発症を予防することです。今回の発表では、G6DD 欠損症小児において、抗酸化作用、抗炎症作用、気道開存性を持つデクスメトミジンの有用性を報告しました。ヨーロッパ、米国などの方がG6PD 欠損症の患者さんが多いためか、興味を持って頂け、質問も多く受けました。

今回の学会の共通言語はドイツ語と英語で行われ、英語での困難気道（DAM）講習に私も参加しました。チーム毎に分かれてのDAM シミュレーションでは、国は違えど、言葉は違えど、危機的状況に対する真剣な思いは皆一緒だということを再認識しました。講習後は意識下挿管時の鎮静の深さについて討論が始まりましたが、日本に比べて米国、ヨーロッパでは、より深い鎮静が好まれているようでした。各国の考え方に触れられたことは大変貴重な経験になりました。

後日、私のポスターが「International Poster Journal of Dentistry and Oral Medicine」に掲載されることになり、ありがたく思いました。これらもすべて諸先生方のおかげと感謝しております。国際医学情報学講座のHelena Akiko Popiel 先生にはネイティブ英語のご指導を賜り、大変お世話になりました。丁寧なご指摘をメールですぐに返信して頂いたり、大変感謝しております。心に残ったアドバイスも頂きました。ポスター、原稿は読まないこと。伝える気持ちが大事なことです。Popiel 先生のアドバイスのおかげで初めての海外での学会発表でしたが、自信をもって臨むことが出来ました。

海外の学会に参加することをきっかけとして、様々な考え方に触れることが出来、大変有意義な時間を過ごせました。ここで得たことを日々の臨床に生かしていきたいと思えます。多くの皆さまのおかげでこのような貴重な経験をさせて頂きまして、この場をお借りしまして深く御礼申し上げます。